

錠剤の分割服用広まる 保険者が推進。安全面での懸念も

Vol. 4, No. 52 July 8, 1999
Health and Welfare Department
伊原和人 (Kazuhiro Ihara)
天池麻由美 (Mayumi Amaike)

錠剤を分割して1粒を2回に分けて服用する「分割服用 (pill splitting)」が議論を呼んでいる。従来、臨床現場では、患者の体格等に応じてしばしば行われてきた方法であるが、最近では、薬剤費を節約する目的で保険者が加入者に奨励したり、また、薬剤給付の受けられない患者本人が行うケースが増えてきている。

経済的な理由から新たに広がりを見せる分割服用であるが、一方、医療関係者、とりわけ薬剤師からは安全面での懸念が示されている。

今回は、こうした錠剤の分割服用の動向についてレポートしたい。

経済的理由から普及する分割服用

近年、ユーザーフィー制度の導入によって次々と高価な新薬が上市される中で、患者や保険者にとって薬剤費への負担は重くなる一方である。こうした状況の中で、わずかでも薬剤費を節約しようとして、服用量の2倍（もしくはそれ以上）に相当する用量の錠剤を購入し、それを分割して服用する分割服用が広がり始めている。従来、臨床現場では、患者の体格等に応じた用量とするためにしばしば行われてきた方法であるが、最近では、こうした臨床上の理由からではなく、経済的理由から行われていると言われている。

HMOの大手、Kaiser Permanente社は、分割服用による薬剤費抑制効果に着目し、加入者である患者が錠剤の医療用医薬品を服用する場合、2倍の用量を購入させ、等分割して服用するよう指導している。

また、ワシントン州のメディケイド・プログラムも、昨年6月より錠剤の分割服用を取り入れているが、同プログラムでは、スコア (score) と呼ばれる分割線が刻まれた錠剤のみを分割服用の対象としている。さらに、同プログラムでは、錠剤が正確に分割されるようにとの配慮から、薬剤師が錠剤の分割を行うよう促している。

さらに、ネバダ州にある HMO では、メールオーダー¹によって医薬品を郵送する際に併せて錠剤分割器 (pill splitter²) を同封し、分割服用を指導している。

分割服用の経済的効果は？ モノによっては、200 ドル以上の薬剤費節約も可能

分割服用による薬剤費抑制効果であるが、下記の表は、用量の異なる同種の医療用医薬品 (錠剤) について、同一期間服用した場合の価格の違いを示している。表内の血圧降下剤 Prinivil の場合、20mg の錠剤を 100 個購入すると 100.25 ドルであるが、40mg を 100 個購入するとその価格は 143.53 ドルとなり、それを等分して服用すると 20mg に換算して 200 個分となり、20mg の錠剤を一錠ずつ服用する場合と比較して全体で 56.97 ドルの節約となる。一方、抗うつ薬 Zoloft の場合、分割服用による薬剤費の節約効果は、220.58 ドルにも上る。これら 2 品に限らず、異なる用量の同種の医療用医薬品を比較した場合、一錠あたりの価格差は僅かであるか又はゼロであることが多く見受けられることから、分割服用に大きな経済的メリットが存在することがわかる。

http://www.jmari.med.or.jp

¹ 保険加入者に対し郵便等で医薬品を注文させ、郵送する方式。薬局での販売に比べ、コスト削減につながるとして HMO 等で広く利用されている。

² 錠剤分割器は、5 ドルから 10 ドルの価格で販売されており、インターネット上でも「あなたの薬剤費を大きく節約 (Save Big Dollars on Your Medication!)」といった宣伝とともに販売されている。

分割服用の安全面での懸念

分割服用による薬剤費の抑制効果は明らかであるが、こうした服用方法に関する安全性は、現在のところはっきりしない。5月20日付け USA Today 紙は、「Is it OK to split pills to cut costs? (コスト削減のために薬を割って飲んでも大丈夫?)」という記事の中で Kaiser Permanente 社の医療保険に加入する Oleta Yocum さん(カリフォルニア州在住)の例を取り上げ、分割服用の在り方に疑問を投げかけている。

血圧降下剤を服用することになった Yocum さんは、Kaiser 社の方針により、2倍の用量が処方され、本人はその指示に従って錠剤を分割して服用し始めた。

分割服用の開始から数週間後、Yocum さんは、めまいと血圧の上昇を訴えて救急医療室に駆け込んだ。診断にあたった医師は、Yocum さんが服用していた錠剤は、分割にふさわしい加工が施されてはならず、正しく等分できなかった錠剤を Yocum さんが服用したために、このような事態に陥ったのではないかと見ている。Yocum さんは、錠剤分割器を使用して錠剤を割っていたが、実際のところ、分割器を使っても錠剤をうまく等分できなかったと告白している。

また、同記事では、1998年に Pharmacotherapy 誌に掲載された錠剤の等分割に関する実験結果を紹介している。この実験は、Medex Clinical Trial Services 社の会長兼 CEO、Joseph McDevitt 氏が 94名の健康なボランティアを対象に行い、分割線の入った錠剤をボランティアが各自 10錠割った後の各粒の重さを測定した。その結果、分割された錠剤の 41%は、(分割後の)理想的な重さと比較して 10%超の誤差があり、また、そのうち 12%については、20%超の誤差が見られた。

錠剤の分割服用に関する研究は未だ広くは行われておらず、また、FDA もこれに関する調査は行っていない。FDA 側は、分割服用による問題事例の報告は多くはないとしており、分割服用に対する FDA の関心は高くない様子である。

しかし、薬剤師等からは、錠剤の分割服用を危惧する声が上がっており、前述の錠剤の分割後の重さ測定実験を行った McDevitt 氏は、分割服用に関する安全性と効能に関する調査がより大きな規模で行われるべきであると述べている。

また、カリフォルニア州 Fresno/Maedera Pharmacy Association の会長、Michael Winton 氏は、心臓病や甲状腺の治療薬の場合には、数ミリグラムの違いが服用後に大きな影響をもたらす可能性がある」と発言している。

錠剤を分割服用する際の留意点

現在のところ錠剤の分割服用にあたっては、医師によるモニタリングと患者が適切な用量を服用することが不可欠と考えられている。以下は、前出の USA Today 紙の記事に掲載されていた分割服用に際しての注意事項である。

- ・ 医師や薬剤師の承諾なしに、錠剤を分割服用してはならない。
- ・ カプセルに入れられた医薬品は、一定の時間を経て体内で吸収される加工がされているため、こうした製品は決して分割服用してはならない。
- ・ 心臓病、甲状腺、発作、血塊の治療薬の一部には分割服用を行うべきでないものがあるため、分割服用については必ず医師に相談する。
- ・ 医師が患者に対して分割服用を促す場合、その多くは、患者の体格等に合わせるために行っている点に留意する。

<http://www.jmari.med.or.jp>